

第175回すいとぴあ江南マラソン

夏近し、暑さ厳しいなか16名が走る

一三三
年五月二日

フル百回楽走会

593

武藤 翔峰

5月21日(土)第175回すいとぴあ江南マラソンが行われました。朝から強い日差しとなりましたが16人(うちフル百7人)のランナーが集まりました。今日は暑くなると思い、朝6時半過ぎから走り出しましたが、正解でした。9時過ぎからは夏を思わせるような暑さとなり、みなさん苦しみながら楽しんでいました。さくら道を完走した若手のホープ、愛知の沼崎伸夫さんがフル百に入会希望されましたので、早速吉野事務局長にお願いしました。

フルマラソンの部

No.624 木村 敬 5時間26分26秒
No.193 千田虎峰 5時間45分00秒
No.593 武藤 彰 6時間57分37秒
No.804 渡辺和次 5時間32分40秒
No.820 永山敏巳 4時間25分34秒

No.779 石田 求 5時間30分20秒
入会申請中 沼崎伸夫 4時間11分49秒

ボランティアの部 池田克洋

その他9名 合計16名の参加でした





大野渡船場跡

尾張大野村（一宮市）から松原島村（各務原市）に至る渡船で、江戸時代万延元年（一八六〇）までは幕府の認める渡船場として繁昌し、肥料・薪などの取引がこの渡船を利用して盛んに行われてきた。その後、差留めになったため、文久三年（一八六三）、尾張栗原郡の極楽寺村、大野村・西海戸村の三庄屋が連署して、北方代官弓場勘三郎に、大野渡船場の新設願書を提出したことがあったが、河田渡船に近接し過ぎているとの理由で却下されたようである。明治以後は自分渡しとして松原島村河田島村渡船組合で渡船を行った。

河田渡船場跡

昔から尾張（愛知県）と美濃（岐阜県）を結ぶ道筋にあたり、中街道と称して大変重要視されていた。特に享保十二年（一七二七）、一宮村に三八市が開市されると、多数の人々が渡船を利用し、この地方の織物の発展に寄与したものである。歴史的に見ると、河田渡船は、承久三年（一二二一）鎌倉勢北条義時の一軍が、一宮からこの渡しを渡って美濃の戦に向かっている。戦国時代の慶長五年（一六〇〇）関ヶ原の戦では、東軍徳川家康の特池田輝政・浅野幸長、山内一豊等の部隊がこの渡しを渡り、河田島付近の渡河戦に臨んでいる。

